

第 1 回会議における課題・意見等（主なもの）

区分	委員から発言があった課題・意見（主なもの）
1 認知症に関する理解の促進と本人・家族への支援	<ul style="list-style-type: none"> ・サポーターやメイトは順調に増えているが、活動状況やサポーターのフォローアップについてはどうか。宇都宮市では、サポーターのフォローアップ研修を実施している。 ・認知症の人やその家族等、当事者の視点を重視して欲しい。 ・症状が進んでも、認知症の人本人は自分なりの考えは持っている。 ・市民後見人について、制度の普及が進んでいない。制度の普及に加え、様々な支援も必要。
2 認知症の早期発見・早期対応に向けた体制の構築	<ul style="list-style-type: none"> ・認知症の人の増加が見込まれる中、認知症疾患センターの業務が逼迫することも想定していく必要がある。 ・認知症初期集中支援チームはアウトリーチできる支援としては有効な取組である。同チームの普及・啓発や、チームの活用方法について市町での検討に加え、県としても検討することが重要である。 ・多職種連携強化の研修があるとよい。 ・セルフネグレクトのような、困難事例への支援も併せて考えていく必要がある。 ・徘徊対策（主体は市町）について知らない人が多い。 ・意思決定支援、権利・利益の保護に関して、職種によって考え方やイメージが異なる。 ・症状別に施策の方向性を検討するようなきめの細かい仕組みも必要では。
3 認知症対応力の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・意思決定支援、権利・利益の保護に関して、職種によって考え方やイメージが異なる。 ・本人の生活の場が変わったことにより、症状や行動が落ち着いた事例もある。
4 若年性認知症への対応	<ul style="list-style-type: none"> ・若年性認知症を知らない人が多い。PR不足を感じている。 ・若年性認知症は周りに公表しづらい特徴がある。若年性認知症になっても安心して働けるような環境づくりに向けた取組も必要。